

保育所・幼稚園における 子どもの本の実態について

——1969年度134クラス担任のアンケートより——

神 立 幸 子

目 次

(一) 調査

目的 ・ 調査対象 ・ 調査期間 ・ 調査方法 ・ 調査内容

(二) 調査結果

- (1) 保育者の子どもの本にかかわる意見
- (2) 絵本について……（本号はここまで）
- (3) 月刊絵本について
- (4) 昔話，民話，名作，創作童話について
- (5) その他

(三) まとめ

(一) 調査

目的

現在の日本の保育所や幼稚園においては、どのような子どもの本がとりあげられているのか、子どもたちはそれらにどのような興味をよせ反応を示しているのか、また保育者はどのような意見をもってその現状にのぞんでいるのか。その実態を知るために東京都内と各地方の保育者に1969年度一年間の状況をつかむアンケートを行った。その整理と若干の考察を試みることにより、現状の把握と、よりよい発展の方向を探ることを目的とする。

調査対象

都内幼稚園教諭 150名

都内保育所保母 150名

(本学指定実習園の中から選択)

各地方保育所保母 200名

(保育学会所属保母の中から選択)

調査期間

1969年12月～1970年2月

調査方法

アンケート用紙を郵送にて依頼，回答は無記名

調査内容

- (1) 保育者の担当年令児とかかわる子どもの本についての意見
- (2) 絵本について
 - (イ) 1969年度に子どもがもっとも興味を示したり，よろこんだりした絵本名
 - (ロ) どういう点に感動したり，興味を示したか
 - (ハ) どのような具体的な反応，活動があったか
- (3) 月刊絵本について
 - (イ) 園でとりつき家にもちかえらせている月刊絵本名
 - (ロ) 保育者の月刊絵本に対する評価
- (4) 昔話，民話，名作，創作童話について
 - (イ) 1969年度に保育者が子どもたちに読んであげたり語って聞かせたりした作品名
 - (ロ) 保育者が作品をとりあげる意図

- (ハ) どのような具体的な反応，活動があったか
- (ニ) 1970年3月までにとりあげる予定の作品名
- (5) 子どもに本を読んであげる回数，時間について
 - (イ) 月，週にとりあげる回数
 - (ロ) 一日の流れの中のどの時間でとりあげるか

(二) 調査結果

アンケートの回収数—134

地域・園別	組の年齢別					計
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
都内幼稚園			6	15	17	38
都内保育所	1	9	17	19	13	59
地方保育所	1	4	8	6	14	33
不明	0	0	1	3	0	0
計	2	13	32	33	44	134
混合保育組の区分		1・2歳， 3歳未満 2含む	2・3歳 1 含む	3・4歳 2 含む	4・5歳5， 3・4・5歳 1含む	

<結果について>

保育現場における子どもの本の実態をつかむため，上記調査内容にわたるアンケートを作成し，各保育者に依頼したが，記入者にとってはたいへん負担のようであり，それが回収率3割弱という結果をもたらしたかと思われる。

負担といえる理由は，この回答には9～10ヶ月前の記憶をふりかえる，さらには記録にもたよらなければならないという作業を含んでいたこと，しかも記述式のためかなりめんどうであったこと，一年間分ということでも量的にも多くなるうえに，アンケートの項目が多かったこと，依頼の時期

がこのアンケートの性格上12月、1月、2月という期末にあたり、保育者にとっては多忙な時期であったこと等があげられる。

アンケートの回収が困難であろうことは十分予想されたので、協力を得るために第一回の依頼先は本学指定実習園という限定を設けた中で選んだ。その回収の結果、低年齢層が少なかったもので、二回目には特に保育所にむけ、保育学会所属保母の中から選んで依頼した。このような方法をとったので、はじめから選択のうえでも、また結果として量のうえでも、全国的な平均として一般化することはできないが、よくみていくとそこに一つの傾向をみたり、あるいは、方向づけを探る資料の一部とすることは許されようかと思われる。

なお回答数は、返信の封書の宛名から明かになったものを地域、園別に区分してのせた。

(1) 保育者の子どもの本にかかわる意見

。1歳児の場合

<内容について>

- 1 物、形、色、事柄そのものが具体的で、現実的にはっきりしていること。

。2歳児の場合

<内容について>

- 1 子どもが主人公、子どもの大好きなものがテーマとなっていること。
- 2 母と子の心の交流、話題を豊にするような内容。
- 3 動物の性質、習性がわかる観察本のすぐれたものがほしい。

<子どもと本とのかわり・与え方>

- 4 読みきかせは予想以上に興味をもつものである。
- 5 耳からきかせる話がもっとほしい。(2)
- 6 2歳児(特に4月当初)にぴったりするものが少なすぎる。(3)
- 7 子ども一人一人に一冊ずつ与えられる数がほしい。
- 8 製本がしっかりしていること。

。3歳児の場合

＜内容について＞

- 1 くり返しのことばの多いもの、リズム感のあるものを喜ぶ。
- 2 幻想的な構図などは理解できない、色彩は明るく混色のないものを好む。
- 3 絵で知識を得るのだから正しい絵でありその流れが大切。
- 4 疑人化された動物の絵（顔が人間的、洋服を着ている）などはやめてほしい。
- 5 絵が主となり、短い文のわかりやすい内容のもの。（5）
- 6 短文が多すぎる、もっと長い方が印象にのこる。
- 7 民話はよくきく、また日本の民話をわかりやすくした絵本がほしい。
- 8 新しい題材の絵本がほしい。
- 9 3歳児にぴったりするものが少ない。（3）
- 10 読みきかせの回を重ねるにしたがって、興味や関心が高まるが、それにこたえるものがない。

＜子どもと本とのかかわり・与え方＞

- 11 絵本の方が、劇あそびやその他の活動に発展しやすい。
- 12 適切なものであれば耳から聞くだけでも無理なく理解できる。
- 13 すぐ絵をみたがるが、徐々にことばだけで理解させるようにする。
- 14 童話や絵本に対する態度ができていず安易なテレビ等にとびつきたがる。
- 15 絵本の気にいったものは何回でもみる。
- 16 一冊を1～2ヶ月かけて深めていく。
- 17 3歳児は個人差がはげしく、同じものをよんでも理解の差があるので、あい間にやさしくいいかえたりする。
- 18 3歳児にぴったりするものが少ないのでやさしく直してから与えるようになる。（3）
- 19 読みきかせには、ハンカチ、指人形、ペープサート等をつかわないと集中しない。
- 20 読んできかすより、適当なジェスチャーをつけて語る方が興味をひきつける。
- 21 物語等は、絵をみせて、文は読まずに教師の話し方でとりあげる。
- 22 人数は12～15名ぐらいが理想的であり、その後の話しあいを大切にする。

◦ 4歳児の場合

＜内容について＞

- 1 明るさ、やさしさ、助けあい、協力、楽しさのあるもの。
- 2 暗いもの、残虐なもの、恐怖をおこさせるもの、体の欠陥をおもしろがるようなものはさけない。
- 3 善悪のはっきりしたもの。
- 4 日常生活の中から取材したもの。
- 5 字がなくても絵だけで筋がわかるような絵本。
- 6 ことばの簡単明瞭なもの。
- 7 わざと七五調にしたものは、文にはずみがつかない。
- 8 長編ものより、母親むけの雑誌の中の短編の方がよい。
- 9 日本のものより、外国のものの方が、ストーリーの展開が奇抜でスケールが大きく夢があり、子どもによろこばれる。
- 10 百科事典、カラー写真のものがほしい

＜子どもと本とのかかわり・与え方＞

- 11 3歳児より一段と理解力がでてくるので系統的に与えたい。
- 12 4歳児は言語に対する興味が特にあり、また情緒の発達の上でも大切なので毎日読み聞かせているか、まだ絵がないと満足しない。
- 13 4月当初は、すぐ絵をみせてといったか徐々に絵なしで満足できるようになった。
- 14 新入園児より3歳児から園にいる子の方が、絵本やお話に親しみをもっている
- ので、積重ねが大切。
- 15 4歳児前半のおちつきのない面を、絵本によって集中させたり、自信をつけた
- り、行動化させることができる。
- 16 数多く与えるのではなく、数少なくして何回もくりかえして与えて十分理解さ
- せる。
- 17 4歳児は読んだ後の反応があり、その後のあそびによくでてくる。
- 18 日本のもの、世界のもの等巾広くとるため、わかりやすいように直して与え
- る。
- 19 保育者がその話しをよく読んでおいて、子どもの反応をみながら、ジェスチャ

ー、小道具等を用いる等工夫して語って与える。

20 ダイジェストではなく、本物を選んで与えている。

。5 歳児の場合

＜内容について＞

- 1 絵本の絵は内容とあっている絵であること、また楽しいものは、何回でもあきずにみる。
- 2 絵本の字は親しみやすく、読みやすい配列になっていることが大切。
- 3 お話は内容のおもしろさが第一であるが、表面的なものより人間味のあるもの、内面的なものを好む。
- 4 ユーモアのあるものを好む。
- 5 日本の昔話を好む。
- 6 現代の子どもは、マスコミ等の影響で知的発達、吸収能力が著しいので、昔話だけでは満足できない。
- 7 5 歳児は科学的なことに興味をもっているので、お話と現実とのちがいに気づいて“そんなの嘘だろう”等という。
- 8 男子は乗物に関したものを好む。

＜子どもと本とのかわり・与え方＞

- 9 紙しばいに親しんできたため、耳からだけの話には満足しないで、どんな小さな絵でも見たがり、“紙しばいがいい”という声が絶えない。
- 10 紙しばい→絵本→童話の順に与えてきたが、どれもよく吸叫しているようだ。
- 11 短編から長編、そしてエルマーのシリーズに進んできたが、みんなよろこんで聞いており、内容もよく理解している。
- 12 自分で想像しながら聞くことのできる話をたいへん好む。
- 13 年長児には、ゆっくりと一つの話に集中できないほど作品が多くありすぎる。
- 14 年長児はいろいろなことに関心があり理解力もあるので、悪質でなければどんどん与えてもよいと思う。
- 15 お話の長短、内容のむずかしいやさしいにかかわらず、子どもが興味をもってきけるように、いろいろ肉をつけたりけずったりして与えるのがよい。
- 16 保育者がその作品をよくつかみ、どこに焦点をのぼるか考えて、丹念にやって

いく必要がある。

◦ 各年令共通の意見

<内容について>

- 1 子どもの年令，発達，興味，環境にあったものを与える。
- 2 最近，内容，形式ともよいものが多くなった。
- 3 最近の絵本で，色彩は著しく芸術的になったが，文はおとなでも首をかしげるようなものがある。
- 4 絵，内容ともしっかりしていることが大切。
- 5 ぼろぼろになってもなおくり返してよまれるような絵本であること。
- 6 子どもが何回聞いてもよろこび，心に残るようなもの。
- 7 真実に幼児に訴えるようなもの，考えさせるもの。
- 8 子どもなりに深い愛情が伝わってくるようなもの，情操を深めるようなもの
- 9 午睡の時読んであげるので，夢のある美しい文章の話がほしい。
- 10 与えるものは，保育者自身の人生観，教育観にかかわっているものでなければならない。
- 11 出版社によって内容がちがいが，原話を書きかえたりしているものがあるが，できるだけ原話に忠実であってほしい。

<子どもと本とのかわり・与え方>

- 12 幼い時，本好きになるということは，人間の一生にとって何より大きな宝である。
- 13 幼児の時から，日本や世界にたくさんおもしろい話があることを知らせ，美しい話を胸の中にとどめさせておきたい。
- 14 絵本は読書への橋渡し，想像力をのばす。
- 15 絵本は視覚に訴えるのではなく，思考する子どもに育てる意味で大切。
- 16 よい本をとおして心の温いふれあいを高めていく。
- 17 想像力を豊かにすると共に，道徳，情操，観察力の育成を助長する。
- 18 最近の子はテレビ等のため，第三者によって与えられたイメージに満足して自分でイメージをつくれないから童話や物語をたくさん与える必要がある。
- 19 テレビではじっくり考えることができないから，耳からの話をきかせて考える

幼児に育てる。

- 20 本は子どもの生活態度，性格形成にかかわってくる。
- 21 教師はよい本を与えようとするのに，子どもは自由あそびの中ではウルトラマンやマンガの本を手にする率が多い。
- 22 たくさんの名作，創作ものにめぐまれて現代の子は幸せであるが，テレビやめまぐるしい社会の中ではその存在はむずかしいのではないか。
- 23 もっとよい本がつくられれば，子どもはテレビにとりつかれなくてもすむと思う。
- 24 子どもには，テレビはあっても童話も楽しむ能力がある。
- 25 本の選択は子どもにできないので，おとなの責任は大きい。
- 26 教師が好きな本を子どもは好む。まず教師が好きになることが大切。
- 27 教師はよくその内容を理解していないと子どもは聞いてくれないし，それ以上に発展しない。
- 28 自分が感動もしなかったのに，これは子どもむきと思って与えたものは，度々受け入れられなかった。自身がこれはすばらしいと思ったものを与えること。
- 29 おとなのよしとするものを必しも子どもによいとは限らない。上から眺めてのものではなく，子どものところに降りてきてみた上での研究が必要。
- 30 与えっぱなしではなく，その中の生命を伝える態度が保育者には心要である。
- 31 いくらよい話でも，ただ読むだけでは効果はなく，長短にかかわらず，保育者がその話をよく理解し覚えて，語って聞かすのがよい
- 32 出版社によって表現のちがいがあったり内容が違うので適切なものを推奨してほしい。
- 33 教材選択の時間の余裕がなく，ゆきあたりばったりになる。
- 34 系統的に研究できるサークルがほしい。
- 35 月刊絵本の中から，今月はよいから選ぶということができるとよい。
- 36 各年齢別に短編を集成したものがもっとほしい。
- 37 保育のまにあわせにとり入れがちだが，主活動としてもとり入れたい。
- 38 絵本はもっと自由に子どもに出し入れさせたい。
- 39 父母にも子どもの本を貸し出しできるよう園でそろえたい。

- 40 親子読書をすすめる。
- 41 家庭で読みきかせが習慣化されていることが大切。
- 42 家庭ではなかなかできないと思うので、園でなるべく多くよい本にふれる機会をつくっていく。
- 43 公立では特定の本をとりつけないか、よい月刊絵本はとりついで家でよんでほしい。
- 44 個人所有の本までもち寄って、よい本を子どもに多く与えようとしているが、もっと多く教材費がとれたらと思う。
- 45 混合保育の中では、年少児にむずかしいものを与えてしまうことがある。
- 46 よい本が高すぎる

＜結果について＞

この項では、各保育者の意見、希望等を、子どもの本の＜内容について＞と、＜子どもと本とのかかり＞とそれに関連してくる＜与え方＞に大別し、各年齢別のものと、どの年齢にも一般的に共通するのとに分けてまとめた。

各年齢ごとの回答数に多少があるうえ、はじめから上記のような柱をたてての回答依頼ではなかったので、アンバランスがあるのはいたしかたない。

＜内容について＞等具体的なことは、なるべく作品にそってふれていきたいが、その他大きな課題となるものは次のようである。

- 絵をみながら楽しむものと、耳から聞くだけで楽しむ話との関連
- 本文にかかわらず自分の話し方でとりあげるとする立場と、より正確に原文にそったものを選びたいとする立場の問題
- テレビ等の社会環境、あるいは家庭、園での習慣づけと子どもの本に対する態度の問題
- 子どもの好み、種類、数、集団とのかかわり等の問題
- よい本を与えようとするところに横たわる諸問題
- 保育者の教育的な意図や本に対する態度

そこにはかなり巾広く、現状のかかえている切実な諸問題が提起されており、保育現場におけるよい本の普及には、これらの問題を切り離せないところにあると考えられる。

(2) 絵本について

(1) 1969年度に子どもがもっとも興味を示したり、よろこんだりした絵本名

<出版社・シリーズ>

略 号 一 覧

あーあかね書房

岩ー岩波書店

崎ー岩崎書店

栄ー栄見社

偕ー偕成社

学ー学習研究社

講ー講談社

こーこぐま社

至ー至光社

小ー小学館

盛ー盛光社

出ー世界出版社

子ー岩波の子どもの本

とー岩崎とびだす絵本

もーものがたり絵本

カーカスタム版童話絵本

世ー世界おはなし絵本

幼ー幼年絵童話全集

よーよいこのくに

デーディズニー名作絵本

ゴー講談社の絵本ゴールド版

バーバパール

こーこぐまのほん

絵ー小学館の絵文庫

育ー小学館の育児絵本

きーきんいろの名作絵童話

おーおとぎばなし

こーこどものみんな

かーからーぶっくふろーら

世一世界文化社	ドードレミファブック
童一童心社	松一松谷みよ子 赤ちゃんの絵本
	えーえばなしのほん
野一野村トイ	ローロンパンルーム
日一日本パブリッシングK. K.	ビービギナーシリーズ
ひーひかりのくにK. K.	声一声のえほん
	世一世界名作絵本全集
	カーカラーえほん
	ひーひかりのくに
	エーエースひかりのくに
ビービクター出版K. K.	音一音の絵本
福一福音館書店	こーこどものとも傑作集
	とーこどものとも
	日一日本傑作絵本
	世一世界傑作絵本
	童一世界傑作童話
	いーいやだいやだの絵本
フーフレール館	人一人形絵本
	キーキンダーブック
	えーキンダーおはなし絵本
ポーポプラ社	どーどうぶつおはなし絵本
	むーむかしむかし絵本
	ちーちびっこ絵本
	くーちびくろ絵本
	絵一絵童話文庫

表 I

種別	作 品 名	作 者・編 者・訳 者	発 行 所 シリーズ	各 組 年 令 別				
				1	2	3	4	5
＼日本＼昔話・民話	だいくとおにろく	再話松居直 え赤羽末吉	福一こ		1		2	2
	かにむかし	文木下順二 え清水崑	岩一子		1	3		1
	さるかに	文小春久一郎 え大日方明	ひ一声		1			1
	さるかにばなし	文西郷竹彦 え福田庄助	ポ一む				1	1
	さるかに	文松谷みよ子 え滝平二郎	崎一も				1	
	おむすびころりん	文小春久一郎 え大日方明	ひ一声		1			1
	おむすびころりん	文岩崎京子 え久保雅勇	盛一こ			1		
	おむすびころりん	文与田準一 え渡辺三郎	偕一世			1	2	1
	おむすびころりん	えセンバ太郎	学一よ			1		
	おむすびころりん		小			1	1	
	ねずみのよめいり				1			2
	ももたろう		小			1	2	
	ももたろう					1		
	こぶじいさま	文松居直 え赤羽末吉	福一と			1	1	
	こぶとりじいさん	文有吉佐和子 え伊東万耀	講一ゴ			1	1	

こぶとり	文大川悦生 え太田耕士	ポーむ		1	2
したきりすすめ	文小沢正 え清水耕蔵		1		
したきりすすめ	文松谷みよこ え遠藤てるよ	盛一お		1	1
舌切雀	文小春久一郎 え大日方明	ひ一声		1	1
したきりすすめ				1	
したきりすすめ	文松谷みよ子 え村上幸一	ポーむ		1	
いっすんぼうし	文山主敏子 え朝倉撰			1	
一寸法師		講	2		
いっすんぼうし	文石井桃子 え秋野不矩	福一日	1		
ちからたろう	文今江祥智 え田島征三	ポーむ		2	2
やまんばのにしき	文松谷みよ子 え瀬川康男	ポーむ			1
三にんむすこ	文渡辺茂男 え瀬川康男	福一日			1
ふしぎなたいこ	清水崑	岩一子	1	2	1
にげたにおうさん(ふしぎなたいこ)	清水崑	岩一子	1		
わらしべちょうじゃ	文西郷竹彦 え佐藤忠良	ポーむ			1
へそもち	文渡辺茂男 え赤羽末吉	福一と	1	1	1
ききみみずきん	文木下順二 え初山滋	岩一子		2	

かさじぞう	文瀬田貞二 え 赤羽末吉	福一こ	1	
笠地蔵				1
ふるやのもり	文今江祥智 え 松山文雄	ポーむ	1	1
浦島太郎				1
かちかち山				1
八郎	作斎藤隆介 え 滝平二郎	福一日	1	3
きつねのよめいり	文松谷みよ子 え 瀬川康男	福一こ		2
つるの恩がえし				1
ねずみのすもう		学一よ	1	
うみをわたったしろうさぎ	文瀬田貞二 え 瀬川康男	福一こ		1
かえるのえんそく(ふしぎなたいこ)	清水崑	岩一子	1	1
かぐやひめ	文松谷みよ子 え 鈴木義治	盛一お	1	1
かぐやひめ		小		2
かぐやひめ			1	
セロ弾きのゴーシュ				1
いないいないばあ	文松谷みよ子 え 瀬川康男	童一松	1	
あなたはだあれ	同 上	童一松	1	2

名 作

創 作

いいおかお	文松谷みよ子 え瀬川康男	童一松	2		
のせてのせて	文松谷みよ子 え東光幸啓	童一松	1		
ぞらくんのさんぽ	作えなかのひろたか	福一と	1	1	1
おてがみ	文中川李枝子 え中川宗弥	福一と	1	1	
しょうぼうじどうしゃじふた	作渡辺茂男 え山本忠敬	福一こ	1	3	4
ぐるんぱのようちえん	作西内ミナミ え堀内誠一	福一こ	1	2	3
ぐりとぐら	作中川李枝子 え大村百合子	福一こ	1	7	6
かばくん	作岸田衿子 え中谷千代子	福一こ	2	1	
ちいさなねこ	作石井桃子 え横内裏	福一こ	1	1	
＜いやだいやだの絵本＞	作せなけい子	福	1	1	
にんじん	作せなけい子	福一い		1	
なんだったかな	文今江祥智 え長新太	出一か	1		
マグマ大使			1		
おはぎとおおかみ	文今西祐行 え小林和子	出一か	2		
うさぎのにんじん	文中川李枝子 え山脇百合子	出一か	1		
おにまるのヘリコプター	文岸田衿子 え堀内誠一	出一か	1		
まいごのくじら	文松谷みよ子 文渡辺三郎	出一か	1		

おじいさんのぶどう	文今西祐行 え小林かず子	出一か	1		
きかんしゃやえもん	文阿川弘之 え岡部冬彦	岩一子	1	1	2 5
とらっくとらっくとらっく	作渡辺茂男 え山本忠敬	福一こ	1	1	
パトカーぱとくん	作渡辺茂男 え山本忠敬	福一と	1	5	4 1
ゆびっこ	作小野かおる	福一と	1		
ジオジオのかんむり	文岸田裕子 え中谷千代子	福一と	1		
ひとりぼっちのつる	文椋鳩十 え野崎貢	ポーど		2	1 1
めんどりとこむぎつぶ	文小出正吾 え安泰	フーえ		2	
ハンカチさんベレーさんマントさん	作松岡節 え東君平	ひーエ		1	
赤いろうそく	文新美南吉 え鈴木寿雄	フーえ		1	
かっぱのクー	文浜田広介 え村上勉	フーえ		1	
おねえさんになったすみえちゃん	作高田敏子 え山本まつ子			1	
ないたあかおに	文浜田広介 え池田竜雄	偕一世		1	1 1
ないたあかおに		世ード		1	
ないたあかおに	文浜田広介 え黒崎義介	フーえ		1	
くいしんぼうのはなこさん	文石井桃子 え中谷千代子	岩一子		1	1
こぶたのまーち	文村山桂子 え堀内誠一	福一と		1	2 3

おばあさんのすぶーん	文神沢利子 え富山妙子	福一と	1	1	2
てつたくんのじどうしゃ	文渡辺茂男 え堀内誠一	福一と	3		
そらいろのたね	文中川李枝子 え大村百合子	福一こ	2	1	5
ゆうちゃんのみきさーしゃ	文村上祐子 え片山健	福一と	1	1	
かさをもっておむかえ	文征矢清 え長新太	福一こ	1	1	2
たろうのともだち	文村山桂子 え堀内誠一	福一こ	2		1
たろうのおでかけ	文村山桂子 え堀内誠一	福一こ	1	1	
のろまなローラー	文小出正吾 え山本忠敬	福一こ	1	3	
びかくくんめをまわす	文松居直 え長新太	福一こ	1	1	
ふしぎなたけのこ	作松野正子 え瀬川康男	福一日	2		
さかさま	作え安野光雅	福一と	1		
もりのおぼけ	文え片山健	福一と	1		
くじらのだいすけ	文天野祐吉 え梶山俊夫	福一こ	1	1	
はるかぜとぶう	作え小野かおる	福一と	1	1	
ゆきんこ	作吉永淳一	フーえ	1		
みつつのびすけっと	作牧村慶子	フーキ	1		
くじらのなみだ	文今井鴻象 え富永秀夫	フーえ	1		

ぐりとぐらのおきやくさま	文中川李枝子 え大村百合子	福一こ			1	2
やさしいライオン	作やなせたかし	フーえ		1	1	
ひとりぼっちのきかんしゃ	文中村美佐子 え長新太	ひーひ		1		
だるまちゃんとかみなりちゃん	作え加古里子	福一こ			3	
だるまちゃんとしてんぐちゃん	作え加古里子	福一こ			4	2
11びきのねこ	作馬場のぼる	こーこ			1	2
つきがみていたはなし	文森比左志 え二俣英五郎	こーこ			1	
二ほんのかきのき	作え熊谷元一	福一こ			1	
ピーうみえいく	文瀬田貞二 え山本忠敬	福一こ			1	
ぼたんのくに	作西巻茅子	こーこ			1	
びびとみみ	作え吉本隆子	福一と			1	
やんすけとやんすけとやんすけ	文永井隣太郎 え遠藤てるよ	フーえ			1	
りゅうのめのなみだ	文浜田広介 え岩崎ちひろ	偕一ひ			1	
ももいろのきりん	文中川李枝子 文中川宗弥	福一童			2	3
もりたろうさんのじどうしゃ	文大石真 え北田卓也	ポーち				1
みんなおいで	文あまんきみ子 え川上越子	福一と				2
りょうちゃんのあさ	文松野正子 え萩太郎	福一と				1

かえるのいえさがし	作石井桃子川野雅子 え中谷千代子	福一こ				1
あふりかのたいこ	文瀬田貞二 え寺島竜一	福一こ				1
びっぷとちょうちょう	文与田準一 え堀文子	福一こ				1
ねずみおことわり	案中谷幸子 作え小野かおる	福一と				2
からすのかんざぶろう	作木島始 え羽根節子	福一と				1
たつの子太郎	文松谷みよ子	講				1
ワソワソ物語	文千葉省三 え新井五郎	ポ一絵				1
ちいさなくじらのおおきなぼうけん	文わだよしおみ え市川禎男	野一口				1
花さき山	文斉藤隆介 え滝平二郎	崎				1
三つのねがい	文天神しずえ え石部虎二	ひ一声				1
おおきなかぶ	再話内田莉紗子 え佐藤忠良	福一こ	1	2	4	6
てぶくろ	えラチャフ 訳内田莉紗子	福一世	1	6	9	5
かわいいめんどり	文木島始 え羽根節子	福一こ	1			
いたずらうさぎのぼうけん	文前田三恵子 え瀬川康男	偕一世	1			1
三びきのこぶた	編飯沢匡	フ一人		1		1
三びきのこぶた		小		2		
三びきのこぶた	訳瀬田貞二 え山田三郎	福一こ		1		

三びきのこぶた						1	3
三びきのこぶた		ひ					1
三びきのやぎのからからどん	えブラウン	訳瀬田貞二	福一世			8	5 6
おだんごばん	訳瀬田貞二	え脇田和	福一日			1	1 3
マーシャとくま	えラチャフ	訳内田莉莎子	福一世			1	1
スーホーの白い馬	文大塚勇三	え赤羽末吉	福一日				1 1
プンクマイチャ	文大塚勇三	え秋野玄左牟	福一と				1
ゆきむすめ	再話内田莉莎子	え佐藤忠良	福一と				1
たいへんたいへん	訳渡辺茂男	え長新太	福一と				1
うさぎのみみはなぜながい	文・え北川民次		福一日				2
ジャックと豆の木			小				1
ジャックと豆の木	文新谷峰子	え石田武雄	ひ一世				1
おおおかみと七ひきのこやぎ	えホフマン	訳瀬田貞二	福一世	1	1	2	1
おおおかみと七ひきのこやぎ			崎一と			1	
七ひきのこやぎとおおかみ			ぎ			1	
七ひきのこやぎ			ひ		1		
七ひきのこやぎ			小		1		

名 作

三ひきのこやぎ						1
ピーターとおおかみ	文内莉莎子 え三好碩也	偕一世	1			
赤ずきん			1			
赤ずきん		崎一と		1		
あかずきん	文天神しずえ え水野二郎	ひ一世		1		
赤ずきん		ビー音			1	
赤ずきんちゃん				1		
ヘンデルとグレート		小一育	1			
へんぜるとぐれーてる	編飯沢匡他	フ一人				2
ヘンゼルとグレート					1	
おかしのおうち		小	1			
ありときりぎりす						1
ちびくろさんぼ	作パンナーマン えトビアス	岩一子	1	3	4	2
ちびくろさんぼ	編飯沢匡	フ一人		1		
〈ちびくろさんぼ〉全6巻	文大石真・鈴木徹郎 え村上勉	ポ			1	
ちびくろさんぼ	文大石真 え村上勉	ポーく		1		

ちびくろみんご	文大石真 え村上勉	ポーく			1
ちびくろサンボのぼうけん	文神宮輝夫 え瀬川康男	偕一世			1
ちびくろさんぼ	文天神しずえ え井上春代	ひ一世			1
ちびくろさんぼ			1	3	1
ピノキオ	文小林純一 え武井武雄	フーキ	1		
ピノキオ	文佐藤義美 え谷俊彦	小一絵	1		
ピノキオ	文天神しずえ え若葉珪	ひ一世			1
シンデレラ		崎一と	1		
シンデレラ		栄	1		
ねむり姫		崎一と	1		
しらゆきひめ			1	1	
しらゆきひめ	文大平よし子 え富永秀夫	盛一き			1
おやゆびひめ	文曾野綾子 え遠藤てるよ	偕一カ	1		
親指姫	アンデルセン	学			1
おやゆびひめ	アンデルセン	栄	1		
おやゆび姫	文天神しずえ え岩崎ちひろ	ひ一世			1
ながぐつをはいたねこ	ペロー	世一ド	1		

ながぐつをはいたねこ	文辻昶文 え三好碩也	偕一世	1	1
ブレーメンのおんがくたい	えフィッシャー 訳瀬田貞二	福一世	1	2
ブレーンメの音楽隊	グリム	ひ		1
ブレーメンの音楽隊	グリム	小	1	
三びきのくま	えベスネツオフ 訳小笠原豊樹	福一世	1	2
みつばちママーのぼうけん		あ	1	
ピーターパン	文与田準一 矢車淳	講一ゴ	1	
はだかの王さま			1	
はだかのおおさま	文与田準一 え小野かおる	偕一世		1
イソップものがたり	文柴野民三 え安泰	盛一き	1	
グリムどうわ	文山主敏子 え花野原芳明	偕一幼	1	
おおきいかぶら	文佐藤義美 えセンバ太郎	フ一キ	1	
くるみわりにんぎょう	文山主敏子 え堀内誠一	偕一世		1
ふしぎなくにのアリス	横山隆一	フ一キ		1 1
こびととくつや	グリム			1
せむしのこうま	文新谷峰子 え石部正子	ひ一世		
しあわせの王子	文横皓志 え水沢決	フ一え		1

創作

みにくいあひるのこ	文村岡花子	学一世			1
家なき子					1
アラビアン・ナイト		フート			1
マッチうりのしょうじょ					1
いたずらこねこ	文クック ルリ子	福一世	1	2	2
＜子どもがはじめてであう絵本＞	文えブルーナ 訳石井桃子	福	1	3	
うさこちゃん	同 上	福一子		2 2	
うさこちゃんとうみ	同 上	福一子		2	
うさこちゃんとうぶつえん	同 上	福一子		1	1
ふしぎなたまご	同 上	福一子		1 1	1
きいろいことり	同 上	福一子			1
どろんこハリー	文ジオンえグレアム 訳渡辺茂男	福一世	1	1 3	1
しろいうさぎとくろいうさぎ	文ウイリアムズ 訳松岡享子	福一世	1	2 1	1
いたずらきかんしゃちゅうちゅう	作バートン 訳村岡花子	福一世	1	2 2	5
もりのなか	文えエッツ 訳間崎ルリ子	福一世	1	1 1	
ゆかいなかえる	作キープス 訳石井桃子	福一世	1	2	1
しんせつなともだち	作方軼羣 訳君島久子 え村山知義	福一と		1 4	

ばかなこねずみ（どうぶつのかどもたち）	文マルシャーク エチャルシン	岩一子	1	
せかいにパーレただひとり	作シックスホード 文西郷竹彦 え太田大八	偕一世	1	1
もぐらとじどうしゃ	文ペチミカエミレル 訳内田莉莎子	福一世	1	2 2
うみべのハリー	文ジオン エグレアム 訳渡辺茂男	福一世	1	
ありのぼうけんりょこう	文ピアノキ 訳小林純一	童一え	1	
シナの五にんきょうだい	作ビショプ 訳石井桃子	福一世	1	5 3
またもりえ	文エエツツ 訳間崎ルリ子	福一世	1	
ちいさいおうち	文エバージニアバートン	岩一子	1	3 1
はなをくんくん	文クラウス エサイモント 訳木島始	福一世	1	1
ラチとらいおん	文エマレーク 訳徳永康之	福一世	1	1
あおくんときいろちゃん	作レオ・レオーニ 訳藤田圭雄	至	1	1
＜ねずみのほん＞	作ヘレンピアス 訳松岡享子	福		1
わしたとあそんで	文エエツツ 訳間崎ルリ子	福一世		1
ひとまねこざる	文エッチ・エイ・レイ	岩一子		2 2
ろけっとこざる	同 上	岩一子		1 1
くまのプーさん	えディズニー 文柴野民三	講一デ		1
かもさんおとおり	文エマックロスキー 訳渡辺茂男	福一世		2

おやすみなさいフランシス	文ホーバン 岡享子	えウイリアムズ	訳松	福一世		2
おおきくなりすぎたくま	文えリンド・ワード	訳渡辺茂男		福一世		1 1
スイミー	作レオ・レオニー			日		2 1
まいごのふたご	文アイネスホーガン	え野口弥太郎		岩一子		1 1
みんなのあたまりんごが10こ	作セオレスイード 訳坂西志保	えロイマッキー		日一ビ		1
ベアくんじてんしゃのけいこ	作えスタンベレンスイン	訳横山隆一		日一ビ		1
どうぶつえんにすみたいな	作えロバートロプシャー	訳飯沢匡		日一ビ		1
ねずみと王さま	作コロマ神父	え土方重己		岩一子		1
ぞうさんババール	作ブリュノフ	訳那須辰造		講一バ		1
こびととゆうびんやさん	作チャベック	え三好碩也		偕一世		1
チキンリトルと悪ぎつね	えディズニー	文柴野民三		講一デ		1
もぐらとずぼん	文ペチミカ 子	えミレル	訳内田莉莎	福一世		3
しずかなおはなし	文マルシャーク 訳内田莉莎子	えレーベテフ		福一世		1
おっとあぶない	作マンローンリーフ	訳渡辺茂男		学		1
あおいめのこねこ	作えマチャーセン	訳瀬田貞二		福一童		1
100まんびきのねこ	文えガアグ	訳石井桃子		福一世		1
チムとゆうかんせんちゃんさん	文えアーディーゾーニ	訳瀬田貞二		福一世		1

ムーミン谷はおおさわぎ	作ヤンソン	訳矢崎源九郎	偕一世			1
しずくのぼうけん	文テルリコフスカ 訳内田莉莎子	えづテンコ	福一世			1
おかあさんだいすき	作フラック	訳光吉夏弥	岩一子			1
ピーターウキぎのぼうけん	作ポッター 子	え三好頌也 訳岸田裕	偕一世	1		2
はたらきもののじょせつしゃけいてい	文えバートン	訳石井桃子	福一世			1

＜結果について＞

表1は、各保育者がとりあげている作品を、＜日本の昔話、民話、名作、創作絵本＞と＜世界の昔話、民話、名作、創作絵本＞と＜その他の絵本＞に類別し、前二者についてのみ各年齢別にとりあげている数をあげた。分類する際に不明なものが12点あり、この表にのせていない。また作者名、発行所の空欄は、それらがアンケートに記入されていないもの、あるいは作者名がその絵本にも記されていないものである。

全体的にみると、一つの作品に対しあげている点数のばらつきが目立ち、決定版とするものが少ない。（計5回以上のものが10）その理由の一つはアンケートの数が少ないこと、またアンケート依頼の際は回収の高率を計ってある限定を設けたが、当然のことながら回答者は必しもよい本を積極的に普及しようとしている保育者ばかりではなかったということであろう。ここでよい本というのは、その真価はなお時間をかけて問われなければならないが、子どもの本の研究家等によって話題作としてとりあげられたもの、またはブックリストに二度ならずのったようなものを指している⁽¹⁾。そしてそのような作品を1つもあげていないところが37あったが、この現状を知ることは、このアンケートの一つの成果であった。

さてアンケートの回収数が少ないため、あげている回数はそれだけで絶対視することはさけなければならないし、またその中味は、次の(2)(3)の報告とかみあわせてみていかなければならないが、ここでは(1)の意見を取り入れ若干の考察を加えながら、各年令の代表的なものを大まかにみていきたい。

1歳児の場合、2という少ない回答の中に＜松谷みよ子、赤ちゃんの絵本＞があげられている。1歳児の1の意見に反して、色、形はやや不鮮明であるが、日本の伝統的なことばを取り入れたり、単純なくり返しを用いて1歳児のあそびと結びついて喜ばれているようである。

2歳児の場合、この表では省略した＜ものの絵本＞＜童謡絵本＞等がか

なりあるが、2歳児の6の意見にあるようにストーリーもので決定版とするものがでていない。本の形式としては、1歳児の1、3歳児の1、2、35内容としては、2歳児の1、2等の意見が大切な条件であろうが、なお2歳児の特殊性を積極的にとり入れた作品が必要であろう。そうした中で、〈からーぶっく〉の一部、〈子どもがはじめてであう絵本〉の一部がとりあげられているといえよう。

ところで男児は2歳児でも、車という素材に対する興味から、実際には3歳以上に適している作品にも、異様な興味を示すことが報告されている。そこには〈ものの絵本〉だけでは満されないダイナミック性をそれなりに感じとっているようであり、これを一概に〈ものの絵本〉の代替としてみてはならないようである。

3歳児の場合、3歳児の9、10のような意見がなおきかれ、それに付随して18、21のような現象も助長されるのであろうか。

3歳児の5、6の意見は、3歳～4歳という急激な成長をみせる年齢の巾の中では、どちらも大切な意見であろう。また短文の積み重ねでかなり長い構成となっている“いたずらこねこ”“もりのなか”等をみると、どちらの意見も概当するといえよう。そのほか本の形式としては、3歳児の13、4の意見が、2歳児の場合よりふくらみをもって重要となってくる。内容としては、2歳児の1、2がなお大切な要素であるが、そこに“ぐりとぐら”“たろうのともだち”のような友だち関係があらわれてくる。

また3歳児は、話を話として楽しむことができるようになるので、3歳児の7の意見にあるように、日本のものに限らず世界のものについても構成力のある昔話等にとりくむことができる。そこでは4歳児の3の意見が一つの大切な要件であるが、なお善悪の対立関係や、悪をこらしめる方法は“三びきのやぎのがらがらどん”のように迫力はあっても、単純、明快なものが、3歳児の感情や認識のあり方に適しているといえよう。

4歳児の場合、4歳児の11、12、17の意見にあるように、その認識、感

情の発達とあいまって、子どもの本に対する態度にも一般と深いものがでてくる。

そこで4歳児の3の意見も、3歳児の場合のように単純なものではなく、いっそう知恵や、ユーモアのはたらく“だいくとおにろく”“おおかみと七ひきのこやぎ”“三びきのこぶた”のような昔話等がとりあげられてくる。

また創作物についても、因果関係や比較対称をたくみに盛りこんだ“だるまちゃんとてんぐちゃん”“しんせつなともだち”“シナの五にんきょうだい”等がとり入れられる。そこには友だち関係が3歳児の場合よりいっそう明確になり、協力という方向に結びついてくるといえよう。

また現実と空想が自由に出入りする“ももいろのきりん”“ちびくろさんぼ”“てぶくろ”や、現実的な手法の“ちいさいおうち”“どろんこハリー”“かもさんおとおり”等も、自己と同一視、客観視の反復のなかで楽しむことができるようになる。

5歳児の場合、理解力が十分ついたところで、5歳児の7の意見のような一面があらわれてくるので、作品の選択やお話とは何かということが、与える側にきびしく問われてくるが、なお奇抜な空想話の“そらいろのたね”等を好む面もある。また5歳児の3、4の意見のように興味や感動が微妙な面に及んでくる一方、平凡な展開や子どもっぽい内容のものにはあきたらなくなり、斬新な“八郎”“スーホーの白い馬”にとりくんだり、“きつねのよめいり”等が好まれたりする。

5歳児の内容としては、努力して成長する過程や、生産的な内容、さらにそこに集団としての展開をみせるものが5歳児の発達段階では適していると思われるが、わずかに“もぐらとずぼん”があげられている。

以上のように、代表的なものの一部にふれたが、その他の分野についても丹念にみていくことが大切であることはいうまでもない。

次に一つの題名の話に対し、2～5種、あるいはそれ以上の絵本があることについてどのように対処すべきかであろうか。

各年令共通の11, 32, 33, 34, 44, 46の意見をみると、今すぐ保育現場に役立つ短的な方法も切実な要求であろうが、やはり4歳児の20, 5歳児の16, 各年令共通の1, 10, 25, 26, 27, 28, 29, 30の意見を総合すると、根本的には保育者自身が子どもの本に対する理解を深め、子どものいききた反応をよくつかみ、かつそれらの体験を保育者同志が出しあい、検討を重ねる中でもっともよいものを決めていくことが大切な方法であろう。

(ロ) とくにどういう点に感動したり、興味を示したか。

例<車の絵本> ①“しょうぼうしどうしゃじぶた” ②“のろまたローラー” ③“パトカーぱとくん” ④“とらっくとらっくとらっく” ⑤“きかんしゃやえもん” ⑥“てつたくんのじどうしゃ” ⑦“ぴかくんめをまわす” ⑧“いたずらきかんしゃちゅうちゅう” ⑨“もぐらとじどうしゃ”

(2歳児)

- ①じぶたの出動する時のぷーぷーという音。
- ②いろいろな事の登場。
- ③救急車やいろいろなパトカーの登場
- ⑤やえもんのだす疑音、やえもんが追いかけられるところ。
- ⑧“ちゅうちゅう” トンネル、ふみきり、駅、たんすい車の登場。

(3歳児)

- ①はしごしゃ、こうあつ車という名前、小さなじぶたが山火事を消したこと(2) じぶたの活躍が新聞にのったところ。
- ②ローラーが他の車に感謝される場所。
- ③絵の中の風景が自分のいる団地に似ている場所、いろいろな車の登場、小さなぱとくんが迷子を見つけだした場所。(2)
- ④とらっくが白バイに追いかけられる場所。
- ⑥くりかえしと展開のおもしろさ、自動車の部品、部品が一つになって車になること
- (2) おかあさんをのせることができること
- ⑦信号にピカくんという名前がついていること、忙しくめをまわす場所。

⑧自分のやりたいことを思いきりやること。

(4歳児)

①小さなじぶたの大活躍② 消防自動車の種類③ 火事。

②いろいろの車, 道路標識, くり返しのおもしろさ, 最後にローラーがおいこして
いくところ。

③パトカーの種類② かっこのいいパトカー, ぱとくんの活躍②。

⑤ことばのおもしろさ。

⑦絵のおもしろさ。

⑧疑音のくり返し, 汽車の名前, ちゅうちゅうの冒険。

⑨自動車にはいろいろな部品がついていること②。

(5歳児)

①名前のおもしろさ, じぶたの出動のところ, じぶたの活躍。

③所長の命令, 無線等のかっこよさ。

⑤(リズムのある) ことばのおもしろさ④。

最後に子どもたちがやえもんを洗うところやえもんの気持。

⑧疑音, 冒険, 自由に逃げだし走りまわるところ③ ちゅうちゅうを追う人間, ちゅうちゅうの気持, 道に迷うところ。

例 “ぐりとぐら”

(2歳児)

大きな卵でカステラをつくるところ。

(3歳児)

ことばのおもしろさ, 自分たちのつくったカステラを, みんなでわけて食べるところ。

(4歳児)

会話のおもしろさ, 絵のおもしろさ② 大きな卵があるところ, 卵でおいしい
カステラができるところ③ 卵のからで自動車をつくるところ②。

(5歳児)

ふしぎな卵をみつけるところ, 卵のからで車をつくる (というねずみのユーモラ

スな考え) (3)。

例 “おおかみと七ひきのこやぎ”

(2歳児)

“とんとん、あけておくれ、おかあさんですよ” というかけ声、狼に小やぎが食べられてしまうところ、狼が井戸におちて死んでしまうところ。

(3歳児)

狼と小やぎの会話、おかあさんやぎが子やぎを助けるところ。

(4歳児)

狼が何度もたずねてくるところ、子やぎが狼におそわれて食べられてしまうところ。

(5歳児)

子やぎがいろいろな場所にかくれるところ、狼のおなかに石を入れるところ。

＜結果について＞

一つの作品が巾広い年令にわたって子どもにも好まれている場合、その作品と子どもとのかかわりあい、当然子どもの、発達、環境等によってさまざまであろう。

例にあげた＜車に関する絵本＞ “ぐりとくら” “おおかみと七ひきのこやぎ” は、その比較として、どの点に興味を示したかを記したものであるが、そこには子どもの感情、認識の発達による差異や、幼児という年令層の中で共通する要素を多少のぞきみることができる。しかしその関係は決して単純なものではなく、発達に応じてふくらむ面がある一方捨象されるものがあったり、共通とする要素（くり返しの形式や、文章、絵のたのしさ等）にも、その年令なりの深淺さがある。

この調査の回答は、教師が子どもの自発的な発言の中でよみとる、教師の問いかけに子どもが応じる、次の(ロ)のA、Dの活動の具体的な場面からみるといった方法によらなければならないが、各作品の内容、テーマとの

かわりにおいて、保育者の主観が混入する傾向がある。

この項は各作品にそってその具体的な部分を列記する必要があるが、紙幅の都合上、その具体的な部分の要素を次にまとめるにとどめておく。

1, 2歳児の場合は、ことばのリズム、かけ声、疑音、会話、くり返しといった形式が多い。内容としては身近な動物とその表情、のりもの、自分と似ているところがあげられていた。

3歳児の場合は、文章のいいまわし、文中のうた、動物の行動、気持等が前記のものにつけ加わる。さらに内容には多面性がでてきて、いたずら、(無事母親のもとに)助けられ戻ることができること、失敗、おかしい行為、身近な生活経験とかかわる事柄、怪物の登場、それをやっつけること等がでてくる。

4歳児の場合は、おもしろい名前、はじめの部分が最後に戻る展開、数量のはいってくるくり返し、動物の生態等がつけ加わる、さらにおもいきり何かをする、破壊すること、逃げたり追いかけたりする、危機や不安状態においこまれる、最後に助かる、小さいものの大きな働き、やさしい気持、親切な行為、ひとりだち、努力してやりとげる、みんなで行う、力強さ、超人的なもの、不思議なものがあげられている。

5歳児の場合、民話のかたり口、動物の成長が加わり、さらに冒険、おとなのまね、知恵、ずるがしこさ、ユーモア、ぞくぞくするような緊張感、権力者がやりこめられる、死、といった要素があげられていた。

(イ) どのような具体的な反応、活動があったか

	2 歳 児	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児
A ごあ っそ こび	だいくとおにろく あなたはだあれ、 いやだいやだの絵 本、なんだったか な、きかんしゃや	おむすびころりん したきりすずめ、 しょうぼうじどう しゃじぶた、パト カーぱとくん(2)、	ぐるんばのようち えん、かぼくん、 のろまなローラー パトカーぱとくん やさしいライオン	さるかに、ふしぎ なたいこ、ぐりと ぐら、そらいろの たね、ねずみおこ とわり、きかんし

	えもん, おにまる のヘリコプター, マグマ大使, おお きななかつ(2), てぶ くろ, おおかみと 七ひきのこやぎ, どろんこハリー, いたずらきかんし ゃちゅうちゅう, ゆかいなかえる	赤いろうそく, ち いさなねこ, ひと りぼっちのきかん しゃ, おおきなな かつあきな, 三 ひきのこぶた, お おかみと七ひきの こやぎ, ちびくろ さんぽ, いたずら こねこ, あおくん ときいろちゃん, みつばちマーヤの ぼうけん	おおきななかつ, あ きなさん, 三ひき のやぎのからから どん, おおかみと 七匹の子やぎ, ち びくろさんぽ, 三 ひきのこぶた, も りのなか, しんせ つなともだち, も ぐらとじどうしゃ (2), しろいうさぎ とくろいうさぎ, いたずらこねこ, みんなのあたまに りんごが10こ, チ キンリトルと悪 きつね	ややえもん(2), も りたろうさんのじ どうしゃ, しょう ぼうじどうしゃじ ぶた, 三ひきのや ぎのがらがらどん シナの五にんきょ うだい
B 劇あそび		ももたろう(2), ぞ うのさんぽ, てつ たくんのじどうし ゃ, ゆきんこ, め んどりと小麦つぶ 三ひきの三つのお はなし, おおきな なかつ(2)てぶくろ (2)三ひきのやぎの がらがらどん(2), 三ひきのこぶた, おおかみと七ひき のこやぎ(2), ちび くろさんぽ, しら ゆきひめ, ピー ターうさぎ	さるかに, したき りすずめ, こぶと りじいさん, おむ すびころりん, ぞ うくんのさんぽ, おおきななかつ(4), てぶくろ(2), 三ひ きのこぶた, 七ひ きのこやぎ(2), ち びくろさんぽ(2), しんせつなともだ ち, こびととゆう びんやさん	さるかにばなし(2) したきりすずめ, そらいろのたね, たろうのともだち てぶくろ(3), おだ んごぼん(2), 三ひ きのこぶた, みに くいあひるのこ(2) ちびくろさんぽ, スイミー, ありと きりぎりす
C ことば	さるかに, 七ひき のこやぎ, ちびく ろさんぽ	いっすんぼうし(2) おおきななかつ, そ らいろのたね, ブ	ブレーメンの音楽 隊, うさこちゃん とどうぶつえん	ぐりとぐら, せろ ひきゴーシュ, ひ とまねこさる, ち

リあ ズそ ムび		レーメンの音楽隊		びくろきんぼ，ブ レーメンの音楽隊
D 造 型 活 動		かにむかし，かぐ やひめ，ないたあ かおに，三びきの やぎのがらがらど ん，あかずきん， ピノキオ	ももいろのきりん (2)，びかくんめを まわす，おおきな かぶ，ぐりとぐら 三びきのこぶた(3) もりのなか，ゆき むすめ，ありのぼ うけんりょこう	かさじぞう，だい くとおにろく，か らすのかんざぶろ う，ないたあかお に，てぶくろ(2)， おおきなかぶ，三 びきのやぎのがら がらどん，マッチ 売りの少女，ヘン ゼルとグレーテル しあわせの王子， スイミー，ふしぎ な国のアリス

＜結果について＞

乳幼児は本から受ける感動，たのしみを，自身の内部に静的に受容，蓄積する面よりも，まずそれらを自分のことばや身体をもって何らかの形で外にあらわすところに一つの特徴があり，そのような過程で子どもの生活やあびをよりゆたかにしつつ，成長や性格形成とかかわり真に子どものものとなる，という見方のもとに，その具体的な様相のあった作品を四つの活動に類別してみた。

A群は子どもの自然発生的な活動であり，本から受けたものを，単独または複数以上の子ども同志で，部分的なものから一連性のあるものを，ことばや行動であらわす。そこには単なる模倣，再現にとどまらず，他の要素とのからみあいや，創造的な要素も入ってくる。そこには各年齢や作品によって，また環境，保育過程，子どもの生活歴等によって種々様々なあらわれ方がある。この活動はかなり広く，かつ多面的にみられると思うが，教師によってとらえられたもののみがあげられるという制限がある。

B群は教師の指導のもとに，一つの劇あそびとして組織化し，他者が観

賞しやすい表現の形をとる活動である。内容としては各年令にふさわしく、劇化しやすい構成力のあるものが優先されるが、同時にA群との関連をつけて、そこに子どもの自発性を導入することが大切であろう。

C群は、B群の活動ほど全体的、組織的なものではなく、教師がその内容の一部をとりあげ、それをことばや身体でその再現と創造をはかり、その範囲を広めつつ深める活動といえよう。

D群は、その作品に関連して粘土、紙、クレヨン等いろいろの材料と、方法を用いて、その一部、または全体を単独またはグループで再創造していく活動である。その完成品を自ら観賞することができるわけだが、幼児期にはその過程がまず大切にされなければならない。この活動の中の紙芝居、人形ペープサート、お面づくり等はB群の活動とかかわっている。

全体的に資料不足のため、各年齢間の対比等にはいたらなかったが、他の活動に発展する代表的なものが若干うかびあがり、それらの作品がもっている要素について、今後も深くみていくことが一つの課題となった。

注(1) “3歳から6歳までの絵本と童話” 鳥越信，森久保仙太郎著（誠文堂新光社）

“子どもの本を選ぶ資料”（日本子どもの本研究会）

“私たちの選んだ子どもの本” 昭和41年6月・昭和41年7月～昭和42年11月・昭和41年12月～昭和44年3月（日本子どもの本研究会）

“子どもに読ませたい100冊の本” “子どものしあわせ” 1969年1月号1969年11月号1970年11月号（日本子どもを守る会）

“教材リストについて” 福光えみ子 “保育の友” 昭和42年10月号（全国社会福祉協議会）

（筆者＝かんだつ・ゆきこ 保育科 保育実習担当）